

『クリスチャンの妻として①』

23/02/19

聖書箇所:エペソ人への手紙 5章 22-24 節(新約 p.379-)



現代の日本が抱えている問題…、いじめや自殺、離婚にドメスティック・バイオレンス、援助交際、引きこもりに老々介護など…、数え上げればキリがありません。実に、数多くの問題が私たちの周りには存在しています。しかも、残念なことは…、多くの人たちにとって、家庭という場所が「憩いの場所」ではなく、居心地のあまり良くない場所…、あるいは、様々な問題の原因や発生現場となってしまっているという現状です。

しかし、ここ最近、私たちがエペソ書を通して学んできましたように、「神様の祝福」とは、何より、その救われた人の心に与えられるものでありました…。例えば、前回に学んだような…、神様への賛美や尽きることのない感謝、従順…、また、ガラテヤ書で御靈の実と呼ばれている…、『愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔軟、自制…』(ガラテヤ 5:22-23)、その他、一致などもそうでしょう…。じゃあ、そのように、神様が、私たちを変えていってくださるのだとすれば…、家庭の中は、どうなっていくと思われます？⇒本来、家庭とは、私たちクリスチャンにとって、1番の憩いの場であり…、本来、安らぎを得ることのできる1番の場所であるはず！…だと皆さんは思われません？

その家庭の中でも、夫婦はその中心です。何故なら、夫婦がいるからこそ、そこに子どもたちが与えられ…、その家族が大きくなっていくからです。家庭が神様によって祝され、家庭が居心地の良い場所になっていくためには、まず、その中心である夫婦の関係が良いものとなっている必要があります。…そうじゃありません？

命題:「クリスチャンの妻は夫に従うべき」ということ、間違った理解？

そこで、今日から3週間ほど、お時間を頂いて、私たちは夫婦について…、また、家族について、学んでいきます。聖書のみことばを見てくださったら分かる通り、まずは、「妻に関する教え」から語られてあります。…果たして、クリスチャンの妻は、その家庭にあって、どのように信仰を証しし、どうやって家族と接していくべきなのでしょう？そういうことを学んでいくことによって、私たちは益々、神様の喜んでくださる家庭というものを築いていき…、まず、どこよりも家庭が私たちにとって、憩いの場所となり…、その家庭を通しても、神様の栄光が現わされていく、ということを願います。

まず、今回与えられた聖書のみことばをお読みみたいと思います。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 5:22-24 をお開きください。まずは、こちらで読ませていただきます。

＜エペソ 5:22-24＞

22 妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。

23 なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。

24 教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。

まず、最初に少し説明をさせてください…。実は、今回も私は、クリスチャンの妻が実践すべきこととして、幾つかのポイントを挙げて、それを説明するだろうと、何となく思っていました…。しかし、今回のみことばを見た時、「クリスチャンの妻が実践すべきこと」という命題にしてしまうと、どう考えても、ポイントは1つだけになってしまいます…。つまり、ここのみことばが実践的なこととして教えてくれていることは、「妻は、夫に従うべきである」ということだけなのです…。

しかし、今の、この時代に、「妻は、自分の夫に従うべきである」などということを言いますと、皆さんは、

このように思われるかも知れません…、「何と、時代錯誤の古いことを…」って…。そこで、今日は…、まあ、命題としては少しおかしいかも知れませんが…、今日のみことばが教えて“いない”、間違った理解について、一緒に見ていきたいと思います。今回、このような命題でお話しするのは…、聖書の教えが少し違った意味合いで理解されてしまっていることがあるからです。そこで、こういう命題でお話しすることによって…、よりはっきりと、私たちが聖書の教えを正しく理解していくことを願います…。

I・妻は、夫の「しもべ」である？(22 節)

まず、よく誤解されやすいのは、妻は、夫の“しもべ”である、というような勘違いです。妻は、自分の夫の言うことや行なうことに対して、ただ…、「ハイ、ハイ」とだけ言って、従っていれば良いというのは、明らかに、聖書の教えではありません！

●妻に対して、『従いなさい』と教えられてある言葉の意味とは？

今日の聖書箇所…、新改訳聖書では、22 節と 24 節とに合計4回も、『従う』という言葉が訳出されてあります…。ちなみに、口語訳聖書や新共同訳聖書では「仕える」という風に訳出されてあって、それでも、やっぱり、22 節と 24 節とで、計4回も、繰り返し、教えられてあります。

でも、実は、この部分を、原語のギリシャ語で観察してみると、「従う」という言葉は 24 節に、たったの1度だけ使われてあるだけです。それなのに、22 節で、2回も、「従う」という言葉が訳されてあるのは、その前の 21 節の言葉がかかっているからなのです…。実は、ここ 24 節で、『従う』と訳されてあるギリシャ語の言葉(ὑποτάσσω)は、21 節でも使われてあって、前回の礼拝でもお話ししたように、元々は軍隊用語で、「自分を下に置く、服従する…」というようなイメージを持っています。

実は、新約聖書で使われてあるギリシャ語では、「従う」と訳され得るような言葉は、10種類近くもあります。当然、それらは、多少、意味合いが違うわけで…、例えば、皆さん、少し後の、エペソ 6:1 や 6:5 をご覧くださいます？…そこでも、子どもたちや奴隸たちに対して、『従いなさい！』ということが命じられてあります…、そこで使われてある言葉と、今日の聖書箇所で使われてある言葉とは違うのです！

エペソ 6:1 や 6:5 で使われてある言葉(ὑπακούω)は、どちらかと言うと…、「よく耳を傾けて…、よく相手の話を理解して、そして、その上で従いなさい！」というようなイメージの言葉です。ちょうど、子どもたちが親に対して服従するように…、また、奴隸たちがその主人に対して服従するように、と教えるのです。当然、といったことは、子どもの側の責任であり…、また、奴隸たちの責任がありました…。しかし、今日の聖書箇所に出てくる、『従う』という言葉には、そのような意味合いはありません…。じゃあ、クリスチャンの妻たる者は、自分の夫から見て、しもべや奴隸のような存在であるから…、妻は、盲目的に、夫に対して従わなければならないなんて…、といったようなことを、聖書のみことばは教えていないのです。

まず最初に、結論を言わせていただきますと、クリスチャンの妻たる者は、自分の夫に対して…、まるで、軍隊の兵隊が自分の上官に従うように、従わなければならない！というようなことを教えてはいません。…どういうことか？それを今から、見ていきましょう。…まず、今日のみことばに出てくる、『従いなさい』とは、どういう意味？どういう状況を教えているのでしょうか？⇒実は、ここ 21 節や 24 節で、「従う」と訳されてある言葉(ὑποτάσσω)は、「自発的に従う、自分から進んで自分を下に置く、相手に服従していく、…」というようなイメージで…、意味合いとしては、「へりくだりのよう従順」を指しているのです。子どもや奴隸たちが、その父親やご主人様に従ったからと言って…、それとへりくだりとは違いますでしょ？…と言いますのは、子どもや奴隸たちが、それぞれの父親や主人に従うのは、当然のことだからです。しかし、奥さんがその夫に従うのは、ある意味において、「へりくだり」と言うか…、「謙遜の実践」なのです！

実は、今日のみことばで使われてある、「従う」という言葉が、ルカ 2:51 でも使われてありました。そこには、肉体的には、まだ少年であったイエス様について、こんな風に記されてあります。『それからイエスは、いっしょに下って行かれ、ナザレに帰って、両親に仕えられた。母はこれらのことのみ、心に留めておいた。』⇒皆さん、どう思われます？この時、少年であったイエス様が両親に従われたのは、イエス様が、ヨセフやマリヤから見て、しもべのような存在であったからでしょうか？…違いますでしょ！イエス様の場合は少し特別です、…と言いますのは、イエス様は真の神であられたからです。でも、イエス様は、御自分が肉体的には子どもであるという立場であるし…、何よりも、イエス様は謙遜であられたので、ヨセフやマリヤに従われたのです…。そうじゃないでしょうか？

あと、皆さん、覚えておられます？イエス様が、弟子たちの足を洗ってくださったことがありましたでしょ？…どうぞ、もしできましたら、ヨハネ 13 章をお開きください。実は、ルカの福音書を見てみると、この出来事の直前には、弟子たちの中で、誰が1番偉いかという言い争いがあったことが分かります…（ルカ 22:24-30）。ヨハネ 13:12-17 です。そこでは、イエス様が弟子たちの足を洗ってくださった“後のこと”が、こんな風に記されています。『12 イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席に着いて、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。 13 あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言るのはよい。わたしはそのような者だからです。 14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。 15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。 16 まことに、まことに、あなたがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさるものではありません。 17 あなたがたがこれらのことを行っているのなら、それを行うときに、あなたがたは祝福されるのです。』

皆さんも、よくご存知の通り、この当時、他人の足を洗うというのは、通常、奴隸がその主人に対して行なうような行為で…、当時は、非常に汚らしい…、また、卑しい行為であると考えられていて、本来なら、誰もが嫌がるようなことでした…。そんな時、何と、弟子たちの師であり、また、神であられるイエス様が、その弟子たちに対して…、御自分の身をもって模範を示して、「へりくだる」ということを教えてくださったのです！人に仕えるということを、身をもって教えてくださったのです！実は、パウロも、今日の聖書個所で同じことを…、妻であるクリスチャンの女性たちにも教えようとしているのです！妻である皆さん…。あなたが自分の意志で…、自分自身の選択でもって…、自ら進んで、夫に従おうとされるなら、その選択を神様が喜んでくださり…、あなたを祝福してくださるのです！』って…。

●初めに、神様が 男と女 を造られた理由

ちょっと皆さん。創世記 2 章をご覧ください。そもそも、一体何故、神様は、私たち人間を、“男と女”と造られたのでしょうか？どうぞ、創世記 2 章のみことばをご覧くださいます。創世記 2:15-25、『15 神である【主】は人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。 16 神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。 17 しかし、善惡の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。』 18 神である【主】は仰せられた。「人が、ひとりでいるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。』 19 神である【主】は土からあらゆる野の獣と、あらゆる空の鳥を形造り、それにどんな名を彼がつけるかを見るために、人のところに連れて来られた。人が生き物につける名はみな、それがその名となった。 20 人はすべての家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名をつけた。しかし人には、ふさわしい助け手が見つからなかった。 21 神である【主】は深い眠りをその人に下されたので、彼は眠った。そして、彼のあばら骨の一つを取り、

そのところの肉をふさがれた。 22 神である【主】は、人から取ったあばら骨をひとりの女に造り上げ、その女を人のところに連れて来られた。 23 人は言った。「これこそ、今や、私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。これは男から取られたのだから。」 24 それゆえ男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。 25 人との妻は、ふたりとも裸であったが、互いに恥ずかしいと思わなかった。』

⇒いかがでしょう？皆さん…。よくご存知ですよね？神様が最初に造られた人間は、アダムという男性だけでした。アダムは、初め1人であったのです…。それで、神である主は、18 節で、こうおっしゃいます、『人が、ひとりでいるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。』って…。その後、神様は、人間アダムの前に、たくさんの動物たちを集められます…。まるで、「人間にふさわしい助け手は、動物の中には居ない…」ということを、アダムに分からせるためであるかのようです！そうして、その後、神様はアダムを眠らせて、エバという助け手を与えてくださったのです！

良いでしょ？皆さん…。これは、あくまでも、一般論であって、すべての人に当てはまる事ではあります…、神様は、「人が、ひとりでいるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」と御考えになってくださって…、その妻であるエバを与えてくださったのです！だから、ここの 24 節には、『それゆえ男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となる…』と教えられてあるのです！これは、もちろん、アダムに対して語られたお言葉ですが、アダムに対して“だけ”当てはまる事ではありません。だから、アダムには居なかつたはずの「父と母を離れ…」という風に教えられてあるわけです。つまり、男（アダム）だけで完全ではなかったのです！男だけでは、不十分で、みごろではなかったのです！だから…、神様は、妻として…、エバという『ふさわしい助け手』を与えてくださったのです。そのように、夫婦とは2人で一体なのです！いかがでしょう？クリスチャンの妻である皆さんは、そのご主人と、深い結び付きを持っていますから、どうぞ、お読みしましたみことばが教えてくれたように、皆さんのお父さんやお母さん以上に、そのご主人と一致して、ご主人の良き『助け手』…、良きパートナーとなってくださいます？

●罪が起こってしまった 背景 とは？

確かに、実際問題として、「他人に仕える」というのは、非常に難しいことです。それは、例え、夫婦であろうと…、あるいは、クリスチャン同士であろうと、皆、同じではないでしょうか？

どうぞ、皆さん、今度は創世記 3 章をご覧くださいます。ここに、まだ罪を持っていなかったアダムとエバが、初めて、罪を犯してしまった時のことが記されてあります。そこから、罪が起こってしまった“背景”について、見ていいかと思います。創世記 3:1-7、『1 さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。』 2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。 3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、「あなたがたは、それを食べてはならない。それに触ってもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ」と仰せになりました。』 4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。 5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善惡を知るようになることを神は知っているのです。』 6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。 7 このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおいを作った。』と、続いていきます。

⇒このようにして、狡猾な蛇…、つまり、サタンに惑わされたエバとアダムが、とうとう、禁じられていた木の実を食べてしまって、彼らは、神の前に罪人となってしまったわけです。…よく言われることですが、蛇に姿を変えていたサタンに誘惑されていた時、夫であったアダムは、一体、どこにいたのでしょうか？…今読んだ 6

節に記されてあったように、その時、アダムはエバと一緒に居たのです！…にも関わらず、アダムは、何もないで、それどころか、誘惑されてしまったエバに同調して、自分自身も、禁じられていた木の実を食べてしまいました…。そうして、この後、彼らは、大変な罪の影響？罪の結果を招いてしまいます…。

どうか、皆さん、考えてみてくださいます？一体、どうして、彼らは罪を犯してしまったのでしょうか？…歴史に、「もしも…」はないというのは、よく分かりますが、でも、一体どうしたら、彼らは、罪の誘惑に負けることがなかったのだと思われます？…非常に興味深いのは…、どうぞ、少し後の 17 節に記されてある、神様のお言葉をご覧ください。『また、人に仰せられた。「あなたが、妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので…』とありますでしょうか？ここで、神様は、どんなことを教えてくださっています？⇒それは、アダムが、「妻であったエバの声に聞き従った」という部分です！…もしも、この時、アダムが、エバではなくて、神様の御声に聞き従っていたら、彼らが罪を犯してしまうことは無かったのではないかでしょうか？…そうです！

どうか、皆さん、誤解しないでくださいね！私は今、「エバだったから誘惑に負けてしまった…。もしも、誘惑されたのがアダムだったら、罪を犯さなかったかも知れない」というようなことを言いたいのではありません。いや、むしろ、私は、例え、この時、誘惑されたのが、アダムであったとしても、結果は一緒だったと思っています。…だって、神様が言われたでしょ？『人が、ひとりでいるのは良くない。』って…。このように、私たち人間は1人だと弱いのです！…皆さんも、どうじゃありません？皆さんも、自分ひとりだったら、言うべきことが言えなかったり、試練に簡単にくじけてしまったり、なすべき正しいことができなかったりするのではないかでしょうか？…だから、神様は、アダムに対して、ふさわしい助け手としての妻・エバを与えてくださったのです！

私は、こう思っています…、「もしも、この時、アダムとエバが、神様のみことばを、ほんの少しも疑うことなく、神様のお言葉に聞き従っていたら」って…。もしも、彼らが、神様のお言葉を堅く信じて、それに従っていたら、彼らが罪を犯してしまうことはなかったのではありません？

…ですから、この時、もしも、アダムとエバが助け合って、どちらかが誘惑に負けそうになっていても、その片方が、神様のお言葉に踏みとどまるなどを教えてくれていたら、彼らが罪に陥ってしまうことはなかったのではないか？…だって、そもそも、そういうことのために、神様は、アダムに対して、エバというふさわしい助け手を与えてくださったわけでしょう！

このように、夫婦という関係は、弱い私たち人間が「助け合うように」、神様が意図しておられるのです！そうでしょう！…よく、最近の若いたちは、「自分が幸せになるために、この人と結婚する…」という話をされることがあります。しかし、どうか、皆さん！結婚という制度の原点に立ち返ってみてください！…天の神様は、「私たち人間が幸せになるため」に、アダムに対してエバを与えてくださいました？…少し違うでしょ！…ではなくて…、独りぼっちで、ふさわしい助け手が居なかったアダムに対して、その助け手となるべく、エバを与えてくださったのです！…そうです！

時々、キリスト教会の中でも、ある教団などは、イエス様を信じていない未信者との結婚を勧めるようなグループがあります。…と言いますのは、そういう結婚がきっかけになって、相手の人が救われるようなことがあるからです。…でも、そういうことが、結婚という制度を作られた神様の意図…、目的でした？…いいえ！神様は、伝道のために、結婚というような制度を御作りになられたのではありません！…そうではなくて、夫婦が互いに助け合うために！夫婦という制度を作られたのです！…そうです！

だから…、こういった理由でも、「相手の人の救いのために、結婚する…」というのは、明らかに、神様のみこころでないことが分かります。確かに、神様の憐れみによって、結婚後に、相手の方が救われるということも有り得ます。しかし、あくまでも、それは、結果論であって、「伝道のために、結婚する…」という考えは、例え、相手の人が未信者であっても結婚したいという、クリスチヤンの側の言い訳としか言いようがありません…。

●罪が引き起こしてしまった 結果 とは？

話を元へ戻しましょう。…どうぞ、今度は、先程読んだみことばの続きをご覧ください。今度は、罪が引き起こしてしまった“結果”について見ていきましょう。創世記 3:8-16、『8 そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である【主】の声を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。9 神である【主】は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」10 彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」11 すると、仰せになった。「あなたが裸であるのを、だれがあなたに教えたのか。あなたは、食べてはならない、と命じておいた木から食べたのか。」12 人は言った。「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」13 そこで、神である【主】は女に仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。」女は答えた。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べたのです。」14 神である【主】は蛇に仰せられた。「おまえが、こんな事をしたので、おまえは、あらゆる家畜、あらゆる野の獣よりもおわれる。おまえは、一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならない。15 わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み碎き、おまえは、彼のかかとにつかつく。」16 女にはこう仰せられた。「わたしは、あなたのうめきと苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。しかも、あなたは夫を恋い慕うが、彼は、あなたを支配することになる。』とあります。

アダムとエバたちが罪に陥ってしまった結果、彼らは、どんどん、平気で罪を犯してしまうようになってしまいます。…と言いますのは、罪を犯してしまった彼らに対して、神様が追求をされます。それに対して、エバが言い放ったのは、13 節、「いいえ！蛇です！蛇が私を誘惑したのです！私は悪くありません！」というようなものでした。アダムにしても同様です。12 節、「あなたが私に与えてくださった女が悪いのです！この女が、木の実を私にくれたから、私は食べたのです！」…このように、彼らは、それぞれ、自分たちの意志で、神様に背いたにも関わらず、それを認めようとはせずに、他者に責任を転嫁しようとするわけです。このように、罪がアダムとエバに入ってしまったことによって、彼らは、素直に、自分たちが犯してしまった罪を認めるとも…、それを正直に告白することも、できなくなってしまいます…。

それと、もう1つ、今読んだ 16 節の最後に、このような…、エバに対する神様からの「御告げ」がありました。16 節、『…わたしは、あなたのうめきと苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。しかも、あなたは夫を恋い慕うが、彼は、あなたを支配することになる。』という部分です。この時以降、女性たちは「産みの苦しみ」というものを経験するようになったわけです。

⇒正直言って、ここ部分は、つい数年前まで、罪を犯してしまったエバに対する神様からの罰だと思っていた。多分、ここ前半、「女性は、苦しんで子を産まなければならない」という部分は、神様からの罰という認識で良いと思います。しかし、後半部分の『…あなたは夫を恋い慕うが、彼は、あなたを支配することになる…』という部分は、神様からの罰と言よりも、罪が引き起こしてしまうであろう、悲しい現実について、神様が予告してくださっているように思われます。

以前にもお話ししたことがあると思いますが…、ここ 16 節で、『あなた(=妻)は夫を恋い慕うが、彼は、あなたを支配することになる…』というくだりがありますが…、実は、ここで、『恋い慕う』と訳されてある言葉(恋慕)が、創世記 4:7 でも使われてあって、そこでは、アダムとエバの子どもであったカインに対して、こんな風に使われてあります。『あなたが正しく行ったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せて、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。』とあります。

⇒ここでは、罪が、カインのことを『恋い慕っている』と翻訳されてあります。実は、この言葉は、ただ単に、「好んでいる…」という意味だけではなくて…、「好むが故に、支配(強要)しようとする…」というような意味があるのです…。だから、創世記 3:16 でも、「妻が夫を愛し、また、支配しようとするが、結局は、夫の方が妻を支配してしまう…」という話がなされているように思われます。もちろん、創世記 4:7 でも同じです、「罪がカインに目をつけて、支配しようとしているから…、カインは、それを逆に…、支配すべきである！」という話がなされているのです！

今、私が何を言おうとしているか？このように、罪は…、罪の性質は、相手のことを支配しようとします。まあ言えば、「へりくだり」の正反対です。…このように、私たち人間は、常に、「相手よりも…、自分が優位に立ちたい！」と思いがちです。でも、それは私たちの内に根ざしている、罪の性質です。ある神学者は、「そういったような利己主義…、つまり、自分のことを第一に考える自分勝手さこそが、すべての罪の本質である」と言います。

しかし…、神様のお言葉である聖書は、それとは全く逆のことを教えます…。マタイ 20:26-27 で、イエス様は、弟子たちにこう教えられました。『26 あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。27 あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい。』⇒つまり、「人の上に立とうとするのではなく、自分を下に置きなさい！」ということです。それはそのはずです！…だって、聖書が教える真の神様は、そういったような罪とは全く正反対の御性質を御持ちの神様であるからです！でも、残念なことに…、私たち人間が罪を犯し…、罪ある者となつた…、その瞬間から、私たち人間は相手よりも自分が優位に立とうとし、相手よりも自分が正しいと思うようになってしまったのです…。旧約聖書のエレミヤ 17:9 で、『人の心は何よりも陰険で、それは直らない。…』とある通りです。

このように、私たち人間が罪ある者となってしまったことによって、夫婦の関係も、また、大きくゆがんでしまいました…。そもそも、女性が造られたのは男性の助け手として、です。しかし、彼らが罪を持ってしまったことによって、女性も男性を支配したいと思うでしょうし…、男性は男性で、より大きな力によって…、女性を押さえつけようとするようになってしまいました…。すべては、罪の結果なのです。

● そういった問題の 解決 は？

一体、どうして、私たちの家庭に問題が起こるのか？⇒簡単に言うと、その原因は罪です。…確かに、私たちの弱さや未熟さも様々な問題を引き起こしているでしょうが…、何より、1番は、私たちの罪が様々な問題を引き起こしてしまうのです。ですから、もしも、私たちが様々な問題を“解決”したいのなら、聖書のみことばにしっかりと立って、みことばが教えるような妻に…、あるいは、夫に、そして、夫婦になっていくなら…、まず間違いくなく、その家庭は神様に祝福されていきます。問題は、私たちが聖書のみことばに立つかどうか、なのではないでしょうか？

どうか、皆さん。もう一度、思い出してください。神は、アダムに対して、エバというふさわしい助け手を与えてくださいました。その時のアダムは、まだ罪を犯しておらず、神様との親密な交わりがあったのです。しかし、そんなアダムに対して、神はおっしゃいました、「人は1人で居るのは良くない…」って…。そして、神はアダムに最もふさわしい助け手であるエバを与えてくださったわけですよ？アダムの必要を満たすことができたのは、ある意味…、エバであったのです！

そのように…、もしも、皆さんが結婚しておられるのなら…、皆さんのパートナーの必要を満たすべきなのは…、また、必要を満たすことができるのは、他ならぬ…、妻であり…、あるいは、夫である皆さんです！

神様は今、皆さんにふさわしい助け手を与えてくださっているはずなのです…。皆さんが、神のみことばに沿って、神のみこころに沿って歩んでいかれる時、皆さんにしかできない働きを、その家庭にあってなすことができ、神が喜ばれる家庭を築いていくことができます。何度も言いますように、問題は、私たちがみことばに従っていくかどうか、なのです…。

＜励ましの言葉＞

最後に、もう1度…、22 節のことばに目を留めて…、『自分の夫に従いなさい…』ということを、もう少しだけ見てていきましょう。ここで、妻たちは、ただ単に…、『妻たちよ。あなたがたは、…自分の夫に従いなさい。』とは教えられてありませんでしょ！そこには、『主に従うように…』という言葉がありますでしょ？…クリスチヤンの妻である皆さんは、皆さんが主イエス・キリストに従うかのように…、ご自分の夫に従うべきことが教えられてあるのです。

イエス様は、私たちクリスチヤンにとって、1番の主人です。ですから、もしも、あなたがクリスチヤンであり…、神様を愛していると言うなら、クリスチヤンの妻であるあなたがすべきことは、ご自分の夫に従うことです。その昔、ダラスの神学校で教鞭をとっていたハワード・ヘンドリック師は、このことについて、このように言っています。「もしかしたら、夫のリーダーシップに従えないのなら、それはあなたと夫との問題であるだけでなく、あなたと神様との問題もあるのだ。」って…。ですから、妻である皆さん、ご自分の夫に従っていくということは、神様に従っていることにもなるのだと教えるのです。それが、妻に対する神様からの教えであります。

確かに、難しい問題として…、「いえ、でも、私の主人は明らかに賢くない選択をしようとしているのです。あるいは、私の主人はクリスチヤンじゃないのです。…」というようなことが言われたりします。しかし、それでも、みことばは教えます。I ペテロ 3:1-4、『1 同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。ただし、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになります。2 それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。3 あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外見的なものでなく、4 むしろ、柔軟で穏やかな靈という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。』

ちなみに、この個所の、『服従しなさい』という言葉も、子どもや奴隸に対する「従いなさい！」という言葉ではなく…、今日の聖書個所で使われているのと同じ…、謙遜を込めた意味の方の、「従う」と言葉(ὑπακούω)が使われてあります…。クリスチヤンの奥さんである皆さんのが信仰や謙遜が、皆さんのご主人への言葉無き伝道…、また、証しとなるのではないでしょうか？

本当は、まだまだ、言うべきことがあるのですが、時間の関係もあって、今日のところは、ここまでにしたいと思います。でも、どうか、皆さんのが信仰の証しとして…、また、ご家族への伝道という意識を含めて、ご主人を愛し、ご主人に仕える者であっていただきたいと思います…。最後に、お祈りいたしましょう。